

科目名称：	ブライダルビジネス論Ⅱ	
担当者名：	小林 卓	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
婚礼を取り巻く環境変化を踏まえ、適切な知識を身に着けるとともに、自己の表現を身に着け、顧客に提案できるスキルを身につけます。		
授業の達成目標・到達目標		
過去・現在のブライダル産業から今後のブライダル産業を考えていくベース作り。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)		20	60	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	ウェディングのプランニング担当	4年
	ウェディングのプランナーマネジメント	13年
	結婚式場の運営	13年
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
ブライダルアイテムについて習熟している	ブライダルアイテム（写真、映像、引出物、招待状、装花）の商品内容から手配方法までを習熟している。	ブライダルアイテム（写真、映像、引出物、招待状、装花）の商品内容を習熟している。	ブライダルアイテム（写真、映像、引出物、招待状、装花）のうち3つについて商品内容を習熟している。	ブライダルアイテム（写真、映像、引出物、招待状、装花）についてなんとなく知っている。
セルフプランニングができる。	結婚式当日の進行表やプランニングを自分の力で完結できる。	結婚式当日の進行表やプランニングを第三者のアドバイスを受け、作成できる。	結婚式当日の進行表やプランニングの手伝いができる。	結婚式当日の進行表やプランニングの仕方をなんとなく理解している。
表現力	自分の考えやプランを自分の言葉で人に説明することができる。	自分の考えやプランを人に何かを見ながら説明することができる。	自分の考えやプランを文章などの形にすることができる。	自分の考えやプランを第三者のアドバイスを受けて形にすることができる。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 結婚式の歴史とブライダル市場	前期内容の復習と改めてブライダルの市場について教科書を用いて行う	30分
第2回 ブライダルビジネスにおけるカスタマー心理	現在の状況、市場に理解を深めたうえで実際のニーズやカスタマー心理について学ぶ	30分
第3回 出会いから挙式まで	結納、婚約、挙式、披露宴などの一連の流れと作法を学ぶ	30分
第4回 ブライダルアイテム① 衣装	ブライダルアイテムの衣装、アクセサリ、コーディネートについて学ぶ	30分
第5回 ブライダルアイテム② お花～コーディネート	ブライダルアイテムのお花から会場コーディネートについて学ぶ	30分
第6回 ブライダルアイテム③	その他のブライダルアイテム、写真、映像、引出物などについて学ぶ	30分
第7回 ウェディングプロデューサーとは	独立したウェディングプロデューサーになるために何が必要かを学ぶ	30分
第8回 2分間スピーチ	個人PRスピーチ（2分間）を準備	30分
第9回 伝える技術①	相手にものを伝える技術を学び、自身のスピーチを振り返る	30分
第10回 伝える技術②	相手にものを伝える技術を学び、自身のスピーチを振り返る	30分
第11回 セルフプランニングのやり方	チーム分けをし、それぞれいいと思うウェディングのイメージを作るための説明を準備	30分
第12回 セルフプランニング①チームウェディングの創作ディスカッション	チームウェディングの創作ディスカッション準備	30分
第13回 セルフプランニング②チームウェディングの創作ディスカッション	チームウェディングの創作ディスカッション準備	30分
第14回 セルフプランニングウェディングの発表①	仕上がったチームウェディングの発表①準備	30分
第15回 セルフプランニングウェディングの発表②	仕上がったチームウェディングの発表②準備	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント（小レポート）をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

出席率、授業態度、講義中実施の課題提出による
※評価方法と合わせて記載してください

課題に対するフィードバック

講義中での説明及び補足にてフィードバック

教科書・参考書

講義時使用のパワーポイント、配付プリント